（別紙1）　　令和6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0796200471		
法人名	有限会社　日本福祉介護サービス		
事業所名	葵グループホーム山見		
所在地	会津若松市山見2-11-7		
自己評価作成日	令和7年9月12日	評価結果市町村受理日	令和8年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253　福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和7年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は令和4年10月に開所しており、1階が小規模多機能型居宅介護、2階が1ユニット9名のグループホームとして運営しています。近隣には提携する事業所（往診医・歯科・訪問看護・薬局）があり、お客様の体調変化に即座に対応出来る体制となっています。
朝礼前に、事故防止対策についての話合いやカンファレンスを実施し、全体周知を行っています。又、朝礼時に、『社是・経営理念』を唱和する事で、「何の為に行うのか」を社員の意識づけを行っています。
今年度の取組には、お客様の楽しみを増やす目的の一つとして、移動販売の依頼があります。毎週月曜日の午後に来られ、社員付き添いし買い物同行を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

1. 利用者の要望や意向を汲み取りながらサービスに反映している。定期的に開催される運営推進会議・感染症対策委員会や勉強会には多くの利用者も参加しており、積極的に意見や要望が出されている。
2. 事業所では年間計画をもとにeラーニングを使い、職員の資質の向上を図り、質の高いサービスの提供に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で「社是」「経営理念」を唱和している。また、その意味を理解し、社員全体で実現に向けて取り組んでいる。	法人の経営理念を事業所の理念として、玄関ホールに掲示している。毎朝の朝礼で法人の「社是」と「経営理念」を唱和し、職員間で共有しながら実践へ繋げている。	法人の経営理念を事業所の理念としているが、グループホームとして地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を策定して欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流も踏まえて「Meet（ボランティア）」団体を立ち上げし、公園清掃、近くのゴミ拾いを実施。時には外での体操なども行い近所の方々にも参加を呼び掛けている。イベント時は、積極的なボランティア受入をしている。	町内会へ加入している。日常的には、事業所周辺の散歩の際に挨拶を交わしたり、事業所行事でボランティアに協力してもらう等交流に努めている。また、利用者が立ち上げた地域のゴミ拾いボランティア活動を行っているが、地域との交流には至っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方が、見学したいと来られる場合がある。その際は、見学、説明、相談を受けている。 また、包括支援事業所より依頼を受ける場合もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議メンバーからいただいた意見などは、社内協議の上、運営に反映させている。 また、運営にどのように反映させたかなどについては、次の会議開催時に報告している。	運営推進会議は2か月に1回、地域包括支援センター職員・地域代表者等・利用者が参加し、事業所の地域交流室で開催している。会議では事業所の活動内容を報告すると共に、課題等について委員から助言を頂きながら、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告や必要に応じて市の担当者に連絡・報告など行っている。市から依頼のあったものに関しては積極的に取り組むほか、相談事や心配事などもすぐに相談できる関係が築けるようにしている。	市の担当者へは利用者の介護保険の更新手続きや運営状況の報告で連絡を密にとり、困ったことや心配なことがあれば、いつでも気軽に相談できる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各委員の選抜をし、委員会を設置。 3ヵ月毎に会議を開催している。 報連相を密に実施し、身体拘束防止に努めている。 外部講師による研修の実施を行い、意識づけに努めている。	「身体的拘束等適正化のための指針」を作成し、委員会を3か月に1回、職員研修を年に2回以上実施している。また、「虐待の芽チェックリスト」で振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。研修会等により、職員は身体拘束による弊害の理解を深めている。	指針の中で委員会は運営推進会議の際に開催することになっており、現状とは異なるため、見直しが必要だと思われる。また、グループホームの入口は出入りの際、施錠をしており、解錠できるか検討して欲しい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	動画研修や、外部講師による研修などの実施により社員教育を徹底。虐待につながるような対応はないか、委員会やカンファレンスで話し合いを行いながら、日ごろから虐待防止の取り組みに努めている。	「高齢者虐待防止のための指針」をもとに、年間計画を作成し、年に2回以上、委員会を開催するとともに高齢者虐待に関わる研修を実施し、虐待防止に努めている。不適切な対応がないかチェックリストで振り返っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	普段の会話及び定期研修を通して、基本的人権の尊重について社員に教育している。 動画研修や外部講師による研修なども実施。 以前、成年後見制度をご利用のお客様もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、実調をしその際に丁寧に説明をしている。パンフレットにも一部内容を記載している。 不明な点があれば管理者が、直接対応し納得出来るまで繰り返し説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が苦情相談窓口となっているが、日ごろから主任・ケアマネが主となりお客様・ご家族とのコミュニケーションをとる事で早期解決に努めている。 日常では、目安箱の設置、社員への要望等を通し改善に努めている。 重要事項説明書に事業所外の相談窓口を明記・説明している。	会議や勉強会にも利用者に参加してもらい、利用者の意見や要望を把握するとともに、家族等の面会時・電話連絡時に職員が積極的に意見や要望を聴くよう努めている。出された意見等は会議等で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長、管理者が個人面談の機会を作り、意見が言い難い社員の吸い上げをしている。 また主任、副主任が中間となり、意見吸い上げをしている。 朝礼・夕令等でもスタッフが意見する場を設け、都度対応につなげている。	職員の意見や要望は職員会議・朝礼・夕礼・個別面談・日常業務の関わり等で把握し、事業所や法人で検討しながら、採り入れている。職員からの提案で業務見直し等が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公正中立な事業運営を目指し対応している。 残業0の取組を今年も継続して実施。 日々のコミュニケーションを大事にしながら、社員一人一人がやりがいを持って働けるような環境作りをおこなっている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を積極的に行い、研修受講者は社内会議時に所感含め内容を共有している。 社員との面談により、今後なりたい自分(ビジョン)を明確化、その目標に向けて必要な研修受講など積極的に取り組んでいる。	介護職員初任者研修や実務者研修の費用等は法人で補助し、介護福祉士等の研修も支援している。また、毎月、計画に基づき職員研修があり、新入職員には担当者を決めてOJTを行い、ケアの向上に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	営業、外部研修等を通して交流をしている。 相互活動は弱いが、包括支援センター等の訪問研修を組込んでいく。 今年度より、外部研修の参加を増やしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、繰り返し面談を実施している。ご本人、ご家族からのニーズ把握をする為詳細なアセスメントをしている。また社員間においても情報共有を図り、サービスの提供を行えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前にご家族との面談を行い、ご本人・ご家族様の思いを把握するように努めている。また、SNS等を活用したり、送迎時のお声がけにより会話する機会を増やすなどして、関係作りを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にお客様の状態に応じて、必要なサービスの検討を行っている。必要に応じて状態にあった事業所、サービス情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活動作（掃除・食事準備・後片付け・洗濯干しなど）について、社員とお客様で一緒に実施。社会的役割を無理のない範囲で実施し、暮らしの充足感に繋げ、自信のある生活実現を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の状態を、業務連携先（主治医、訪問看護、薬剤師）相談の上、ご家族に伝え現状を把握出来る様にしている。その上で、外出、行事参加、面会等を積極的に促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、馴染みの人や場所との関係が途切れない様、外出、面会等許可している。また、必要時は、社員同行もしている。	利用者が今まで築いてきた人間関係や社会とのつながりを大切にして継続できるよう支援している。日常の関わりの中で要望を聞き、外出行事・自宅・墓参り・外食・買い物等に出かけている。家族や友人等の来訪もあり、利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の関係性を理解した上で、席順・レク活動等をしている。 馴染みの関係性が出来、自宅の様に過ごされている方が多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取り、ご逝去後も、グリーフケアに家族が求める場合は努めている。 亡くなった際は、取り貯めた写真を提供し思い出話をしながら家族の心のケアをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のかかわりの中で、ご本人の状態把握（心、身体）に努め、社員全員でカンファレンスを実施している。問題が難しいな場合には、サービス担当者会議を開き、サービス計画の見直しを図りニーズに沿った対応をしている。	毎日のケアの中で利用者の思いや意向を把握し、介護計画の見直しの度に家族の意見や意向も確認している。また、日常生活の中での表情や行動、仕草から推測して汲み取り、利用者本位の支援となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設でも、在宅生活の延長が出来る様にしている。居室に関しては、なるべく自宅で使っていた物を使い、趣味が継続出来るようにしている。 地域資源のほか、ご家族や友人などの協力により、事業所完結にならない取り組みを検討・実施。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時24h集中アセスメントを実施、状態把握に努めている。 アプリ管理にて統計をとりながら、適宜対応を変えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜ご本人、ご家族へ、意見の確認を行い、社員・関係各所へ情報共有を行っている。それぞれの意見等を反映し、介護計画の作成を行っている。	利用者・家族の意向、利用者の身体状況の変化、職員の気付き、モニタリング結果に基づき、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アプリ管理で、情報を個別統計で細かく見れるようにしている。 社員間でも申し送りも紙面・アプリを活用し有効に出来ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉協議会、家族等と連携を図り馴染みの関係他に外部サービス、ボランティアとの関りが図れるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心安全を担保出来るように社員一丸になり、お客様の状態把握に努めている。外部訪問看護、協力医師と相談しながら自分らしい生活が図れる様支援している。地域資源筆頭として、家族支援が十分にされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回以上主治医による往診がある。 往診以外でも、状態により、適宜相談、報告を行い、お客様の情報共有を行っている。	月1回以上の往診と週1回の訪問看護を実施している。薬剤師や歯科とも連携し、随時相談可能な体制が整っている。状況に応じて、希望の医療機関への受診を相談することも可能である。往診以外の医療機関を受診することも可能で、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に外部訪問看護師が来訪、情報共有を行っている。来訪日以外でも、特変等あれば、適宜相談し、適切な対応が出来る様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携シートを早期に作成、担当相談員と退院に向けて話し合いを行っている。 退院後対応出来る内容を可視化する事により今後の方針わかるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約段階でヒヤリングをしている。主治医、外部訪問看護協力の下、お客様やご家族の希望に対応した体制作りを行っている。 ACPは初期段階から始め、段階に応じて家族参加を促している。	重度化対応・終末期ケア対応指針は重要事項説明書にて説明し同意を得ている。本人・家族の意向については経過記録に落とし込み共有を図っている。デスカンファレンスや職員研修を実施しケアの充実を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・転倒による頭部打撲時などの際は、誰でも同様の対応が出来るようルールが明確化されている。 AEDの設置。有事の際は動けるようにしている。 フローを作成し、上記のような緊急時社員が落ち着いて対応できるシステム作りに務めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害（BCP）訓練のほか、離設や誤嚥発生時の訓練なども実施。 机上訓練、実施訓練を通して災害時に継続的な支援が出来るよう取組をしている。	防災訓練を年2回実施している。また、災害発生時の連絡体制やマニュアル、備蓄品が整えられている。今年度は日中火災想定の避難訓練を実施し、課題を共有している。	夜間想定の避難訓練を実施し、昼夜問わず災害への備えを整えることが望まれる。地域・家族との協力体制についても今後構築を進めることが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードを主軸として考え、入社時に、自己決定支援、認知症、身体拘束、虐待、感染研修をしている。 また、委員会で不適切事例をヒアリングし共有指導をしている。	トイレや浴室はドアやカーテンにてプライバシーに配慮した空間づくりを心がけている。また、職員研修を実施し、倫理や法令遵守について理解を深めている。委員会で普段の対応や声掛けについて振り返りを行い、職員間で共有・対応方法を話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	クローズドクエッションを心がけている。 言葉に出せない方には、以前のアセスメントから洗い出しなるべく、意思決定はご本人が出来る様に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、散歩等、規定された時間の中で、希望時間の選択ができるようにする他、希望があれば時間をずらす等、臨機応変に対応し、お客様の気持ちに寄り添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容等、自立の方は自己管理して頂き、難しい方へは希望を取り、都度身だしなみの介助を実施している。衣類準備はご本人と一緒に確認を取りながら実施し、希望あれば適宜衣類交換対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	普段の調理では、味噌汁作り、食材の盛り付け等をお客様が一部実施している。 レク活動では、お客様・ご家族様と一緒におやつ作りを行い、楽しんで頂けた。 その他、①毎月19日にお楽しみ食の提供、②季節の野菜・果物を購入・提供している。	チルド食を利用しており、利用者と職員が一緒に食事づくりを行っている。利用者が家庭菜園で育てた野菜を食事に取り入れ、レクリエーションでは季節の食事やおやつづくりを行うなど、食事を楽しむための取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士による献立のもと、軟飯の量を250gに固定、十分な栄養と食事量を確保している。 水分について、定時の水分提供の他、水分促しを行っている。食事量が少ないお客様へは、食事の様子をご家族へ報告、好みの食品等を持参頂き、提供することで栄養摂取に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理指導にて、１人あたり月に1～2回訪問歯科あり。口腔内の清掃・状態について指導を受けている。社員は指導内容を元に、口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄統計を取り、定時でのトイレ誘導又は、おむつ交換を実施している。	利用者一人一人の排泄パターンを記録・アセスメントし、利用者に応じた排泄支援を検討している。夜間ポータブルトイレの利用や声掛け、見守り等を行い、可能な限り自力での排泄が継続できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取目標を設定しており、少ない場合は、適宜水分提供を行っている。 社員は必ず、排便状況を確認・情報共有を行い、適宜薬剤師・かかりつけ医に相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後と入浴時間を設け、ご本人のタイミングに合わせて入浴支援を行っている。	利用者1人に対して週2回入浴を行っている。午前・午後は利用者のタイミングで選ぶことができる。入浴を嫌がる利用者へは、時間や職員を変えて声掛けしお誘いしている。週1日、入浴剤やアロマ等の変わり湯を実施し入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の方には、医療的アプローチの他に運動量を増やす、コミニケーションを増やす等をし対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅管理指導に全お客様が契約している。週に1～2回程薬剤師の来訪があり。適宜情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の掃除、食器洗い、調理補助を習慣化している方がいる。継続支援出来る様に声かけをしている。また、移動販売（毎週月曜日）や八百屋さん（毎週火曜日）の利用や習字教室等も趣味の一つとなる方がいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日勤社員が、15:00～16:00で施設周辺の外出支援を定期化している。ご家族協力を得ながらお出かけ支援を行っている。 外出では、季節を感じれるように車を使用し出かけている。また、地域行事にも、積極的参加している。	今年度は天候や感染症により、外出レクリエーション実施が困難であったが、今月はドライブの外出レクリエーションを実施している。散歩は天気の良い日に実施している。来年度も外出についての企画検討するなど積極的に外出の機会を設けることとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売（毎週月曜日）や八百屋さん（毎週火曜日）の利用を通して、買い物対応している。支払いを預り金からご本人が支払う様、必要時、預り金が入った封筒を手渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	就寝時以外はすべてに対応している。 特に感染症時は、アナウンスを細かくして連絡が取れる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、温度設定をなるべく一定化するようにしている。シーリングの光を選べるようにしており変化させている。 ご家族が、花や季節野菜等を持参してくださる。施設では、季節の果物や野菜を毎月イベントとして提供している。	共用空間は家庭的で落ち着いた空間になっている。ソファー・テーブル・テレビが設置され、利用者は好みの場所で過ごすことができる。職員と利用者が一緒に季節の飾りを制作し飾っている。ご家族が持参した花や野菜で季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるようにしている。 席の固定はせず、トラブルがあれば社員仲裁している。また、少しのトラブルは生活に必要と考えお客様間での話に過干渉しないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている（グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室内は、ご自宅で使用していた家具類持参し、馴染みの物があることで安心に繋げている。 また、福祉用具等で圧迫する場合は、ご本人、ご家族相談の上荷物配置を変更している。	居室内には自宅で使用していた馴染みのものを持参することができる。居心地よく過ごせるよう、衣装ケース・写真・布団等を持参している。希望があれば、畳での敷布団様式で居室を整えた例もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の出来る事と出来ない事を把握し、役割が成功体験に繋がるようにしている。 フロア・居室内共に、お客様が日時の把握が出来る様、時計・カレンダーを設置している。		